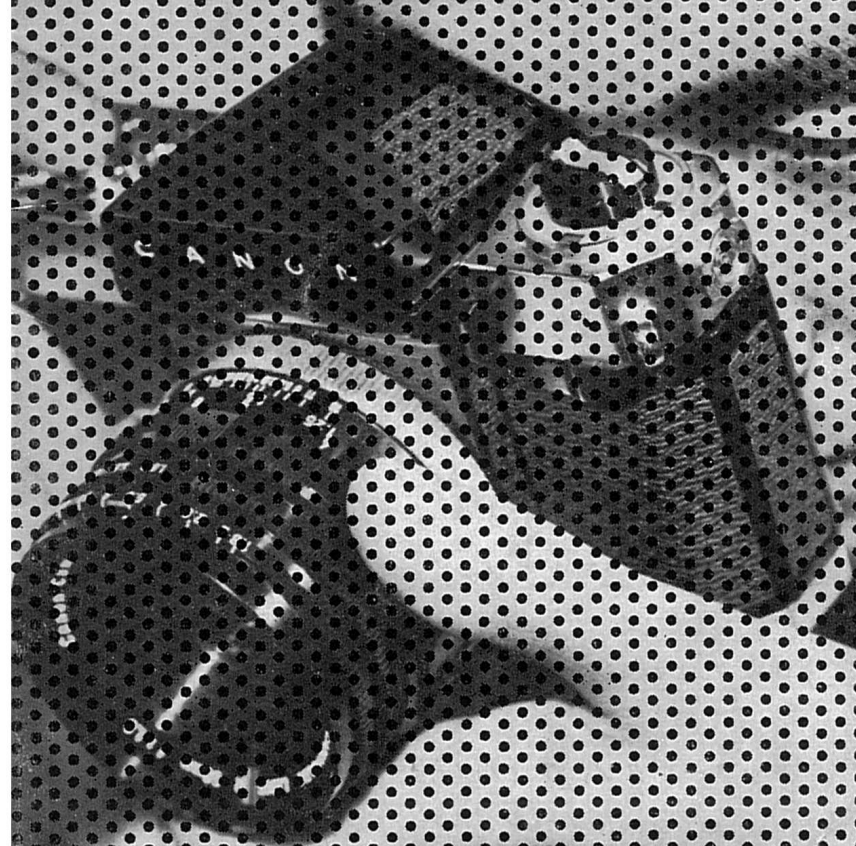


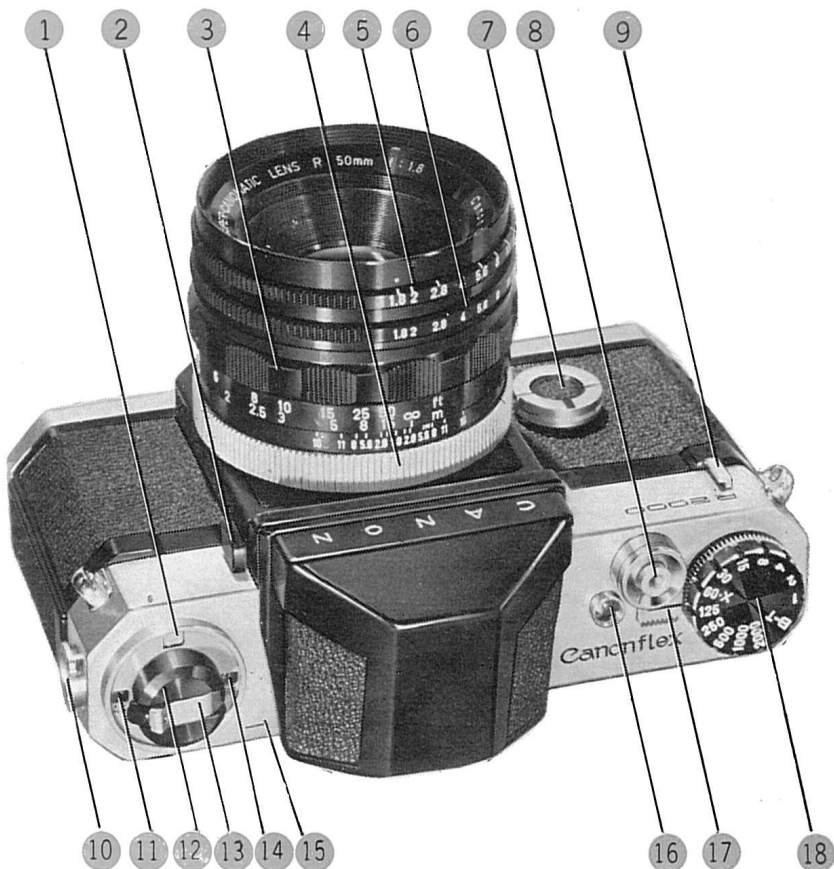
Canonflex R 2000



キヤノンカメラおよびキヤノンレンズは、高度に合理化されたキヤノンの工場で、材料から製品に至るまでの一貫作業によって製造されています。しかも、その工程中には数十回に及ぶ機構的、光学적および電氣的検査が行われ、品質の向上と均一化に最大の努力が払われております。また、これらの検査成績は製品ごとにカードに記入され、製品の品質向上の資料あるいはお問い合わせや修理業務の資料として整理保管され、キヤノン製品を自信をもってお勧めすることのできる基礎となっております。

本社・組立工場の一部





①	フィルムタイプ表示窓	18
②	ファインダー ロックレバー	29
③	ピント調節リング	9
④	バヨネットリング	26
⑤	プリセット絞り	10
⑥	手動絞り	10
⑦	セルフタイマー	32
⑧	シャッターボタン	7
⑨	アクセサリ クリップ	23
⑩	フラッシュユニット 直結ソケット	30
⑪	ASA フィルム感度表示	18
⑫	巻き戻しノブ	17
⑬	巻き戻しクランク	17. 18. 20
⑭	DIN フィルム感度表示	18
⑮	フィルム位置マーク	11
⑯	撮影枚数表示窓	6. 17
⑰	タイムレバー	8
⑱	シャッター ダイアル	8. 23

型式： 35 ミリフィルム用一眼レフレックス

ファインダー： ペンタゴナル ダハ プリズム使用のアイレベル ファインダーと直視式ウエストレベル ビューワーとの交換可能

ピントガラス： フレネルレンズ使用，特殊処理の高解像力性ピントガラス

ミラー： クイックリターン式

プリセット絞り機構： スーパーキヤノマチック完全プリセット自動絞り装置

シャッター： 倍数系列 1～1/2000 秒，等間隔目盛および T, B, X の1軸ダイヤル・フォーカルプレーンシャッター

露出計連動： 高感度キヤノンメーター R によるシャッターおよび絞りの完全連動調整

シンクロフラッシュ： フラッシュユニット直結ソケットおよび自動タイムラグ調節

レンズマウント： キヤノン式バヨネットマウント

交換レンズ： 自動プリセット絞り式各種交換レンズ

セルフタイマー： シャッターボタンでスタートする内蔵セルフタイマー

フィルムとシャッターの巻き上げ機構： カメラ底部に設けた 130° 回転トリガータイプのレバー

フィルムの巻き戻し： 折り畳みクランク式

フィルム装填： 裏蓋開閉式，普通のパトローネのほか専用マガジン使用可能，裏蓋ロックとマガジン開閉との一作動機構，撮影枚数計の自動復帰

安全装置： シャッターボタン，フィルム巻き上げ，シンクロフラッシュ，その他各所に設けられたフルプーフ装置

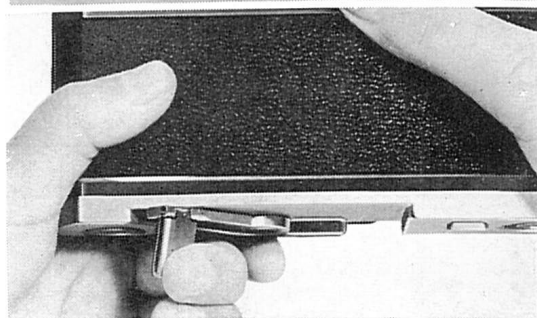
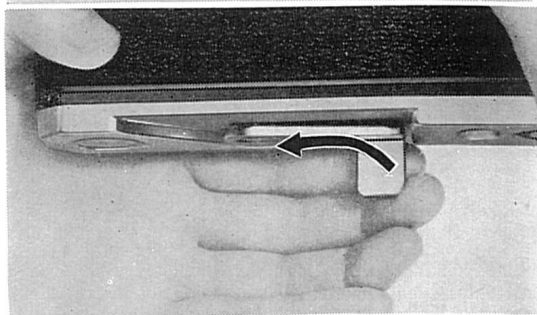
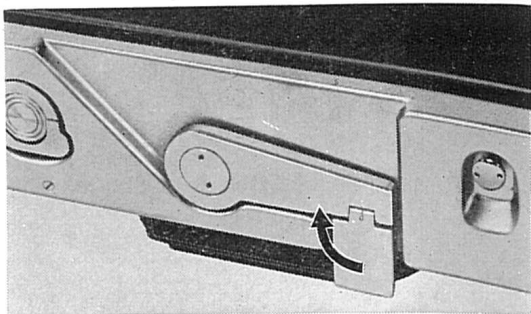
目 次

フィルムとシャッターの巻き上げ.....	6
シャッターの調節.....	8
ピントの調節.....	9
レンズの操作.....	10
キヤノンフレックスの構え方.....	15
フィルムの装填.....	16
フィルムの巻き戻し.....	20
キヤノンメーター R の連動.....	22
露出の決定.....	24
レンズの交換.....	26
交換レンズ.....	28
ファインダーの交換.....	29
フラッシュ同調.....	30
セルフタイマー.....	32
二重露出.....	33
キヤノン専用マガジンとフィルムの填め方.....	34
カメラの保存手入れ.....	36

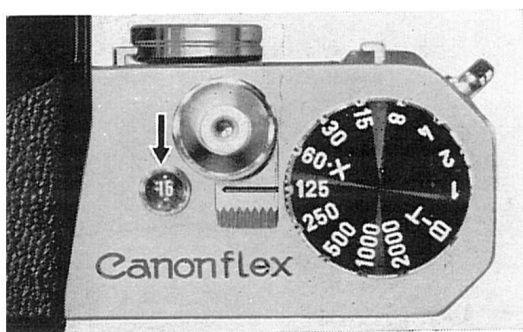
フィルムとシャッターの巻き上げ

トリガーレバーの先端にある指掛けを引き起し、前方からこれに指を掛けて矢印の方向に止まるまで動かすと、フィルムが1コマ分送られ、同時にシャッターが巻き上げられます。

この操作によってミラーの作動機構およびレンズのプリセット絞り機構が同時にチャージされます。



撮影枚数表示 フィルムが1コマ巻き上げられるごとに、撮影枚数表示窓の目盛が1つずつ進んで、フィルムの撮影枚数を示します。目盛は裏蓋を開くと自動的にスタートマークまで戻ります。





シャッターボタンを押すとミラーがはね上がり、同時にプリセットの位置までレンズが絞られ、ついでシャッターが作動します。

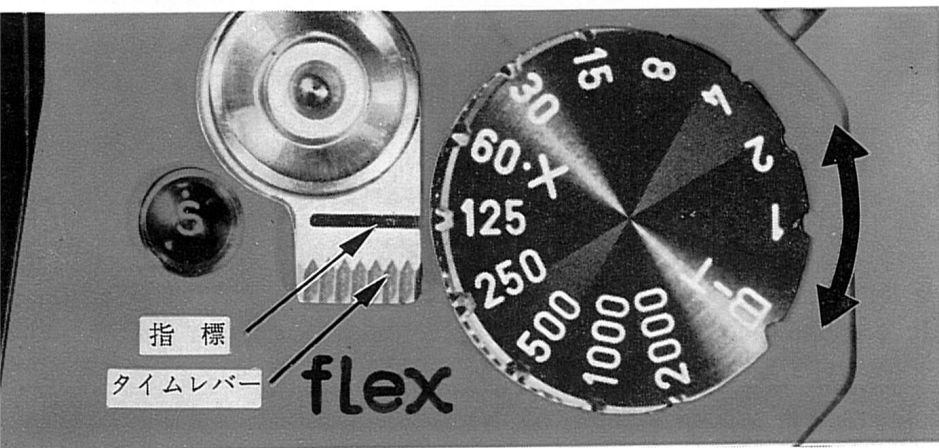
トリガーレバーはシャッターの作動後直ちに巻き上げできる状態になります。

シャッターボタンは巻き上げの途中では押しても動きません。したがってシャッターボタンの動かないときは念のためトリガーレバーを巻き上げて見てください。

トリガーレバーは小刻みの繰り返し操作でも巻き上げられます。その際はレバーの動かなくなったときに巻き上げ完了です。

フィルム装填後第1回目の巻き上げのときだけは1回のレバー操作で巻き上げが完了しないこともありますから、更に繰り返して止まるまで巻き上げてください。

シャッターの調節

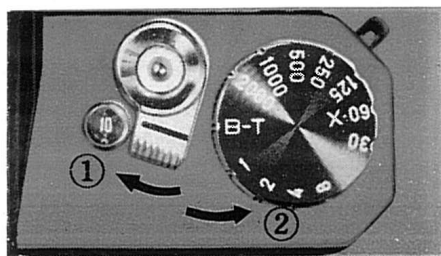


シャッターは1, 1/2, 1/4, 1/8, 1/15, 1/30, 1/60, 1/125, 1/250, 1/500, 1/1000, 1/2000 秒および X, B, T に調節することができ
ます。

シャッタースピードの調節はシャッターダイヤルをそのまま右または
左に回して必要な目盛を指標に合わせます。

ダイヤルの数字は何分の1秒という場合の分母を示します。目盛の中
間は必ずしも完全な中間秒時を示しません。

- スピードライト（ストロボフラッシュ）による撮影には 60-X のシャ
ッターを使用します この場合にはスピードライトの閃光時間だけの
ごく短い露出が行われます。
- B 目盛はバルブ露出で、シャッターボタンを押しているあいだは、シ
ャッターが開いていますから、1 秒以上の露出に用います。
- T（タイム）露出のときは、B-T の目盛を指標に合わせ、タイムレバーを
右回し（矢印1 の方向）に回しておいてシャッターボタンを押します。
このときシャッターは開いたままになります。閉じるときはタイムレ
バーを矢印2 の方向に戻します。
- タイムレバーは普段は必ず戻しておい
てください。戻さずにおきますと、シ
ャッターボタンが押し放しになってい
ますので、次の巻き上げができません。



ピントの調節



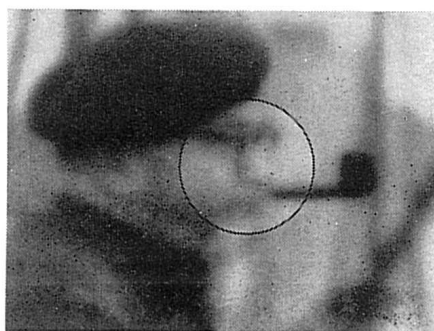
ピント調節リング

レンズのキャップをはずし、アイレベルファインダーの接眼レンズを覗きながら、レンズのピント調節リングを回して被写体にピントを合わせます。このとき、ピントガラス面にはフィルムに写しこまれる画面そのままの被写界全体が眺められます。レンズを交換しても撮影距離を変えてもパララックス（視差）を生ずることがありません。

アイレベルファインダーには、標準視度の接眼レンズが付いていますが、これで見にくい方には別に視度補正用の交換接眼レンズが用意されています。



ピントが合っているとき



ピントがはずれているとき

レンズの操作

スーパー キヤノマチック レンズは、自動プリセット絞りをそなえており、普段はレンズの口径が全開していますが、撮影中シャッターの作動している間だけは絞りが所望の値まで自動的に絞られ、シャッターの作動が終るとまた自動的に全開するようになっています。



プリセット絞り

自動的に絞り込まれる絞りの大きさを調節する機構で、このリングを回して目盛を指標に合わせると、シャッターが切れる瞬間だけ自動的にその絞り値まで絞り込まれます。

スーパーキヤノマチック機構による絞りの開閉は、高速シャッターの場合は眼に止まりませんが、Bまたは低速シャッターの場合はこれを見ることができます。

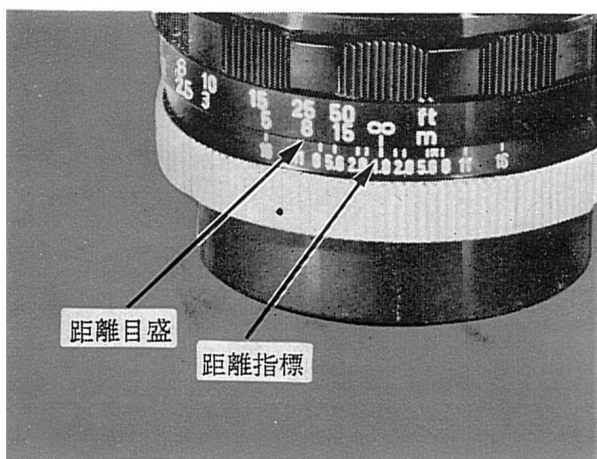
手動絞りを回すとプリセット絞りと無関係に絞りの開閉をすることができます。これによって絞られた状態のピント面をしらべることができます。

プリセット絞りを使用するときは、手動絞りは必ず開放にしておいてください。

絞 り 値	1.2	1.4	1.8	2.0	2.8	(3.5)	4.0	5.6	8.0	11	16	22
露出比率	0.36	0.5	0.8	1	2	(3)	4	8	16	32	64	128

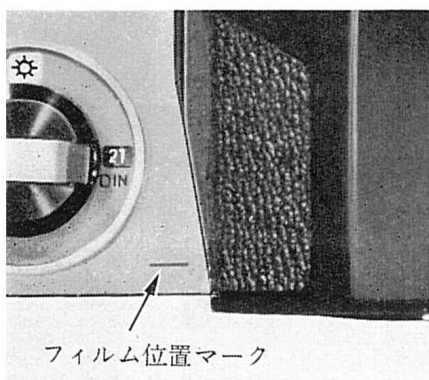
絞りはその数値が大きくなるに従って、レンズが暗くなり、目盛の一段ごとに、明るさが半減するようになっていきます。したがって絞りを1目盛小さくしたときは露出時間を倍にし、2目盛小さくしたときは露出時間を4倍にしなければなりません。絞りは目盛の間も用いることができます。レンズによっては、最大口径の絞りと次の絞りとの間にだけ、明るさ半減の関係がないものもあります。

キヤノンメーターを使用すると、シャッタースピードと絞り目盛の決定がきわめて簡単にできます。



距離目盛はピントを合わせた被写体とフィルム面との距離を示すものです。ピントガラス面でピントを合わせる普通の撮影では必要ありませんが特別の場合、たとえば被写体までの距離を実測してピントを合わせるときとか、被写界深度を的確

に知りたい場合、あるいは赤外撮影の場合などに必要になります。その際の実測距離はフィルム面に一致した位置にあるフィルム位置マークから測ります。距離目盛は、1桁数字の距離ではその数字の中心、2桁数字の距離では2つの数字の間、3桁数字の距離では中央数字の中心が、それぞれ正しい目盛位置になります。



* 被写界深度目盛

ある被写体にピントを合わせたとき、その前後でなお鮮明に写る範囲を示すもので、ピントガラス面の像によっても一応その状態はわかりますが、一層くわしく知るには被写界深度目盛によります。これは距離目盛に関連していて、たとえば 50 mm レンズで 5 m の距離にある被写体にピントを合わせたとき、F 5.6 の絞りを使うとすれば、距離指標の両側で一对の 5.6 の目盛の示す距離、すなわち約 3.7 m と約 7.8 m とを読みとります。つまりこの間にあるものは鮮明に写るわけです。同様にして F 11 に絞れば約 2.9 m から約 17 m まで鮮明に写ることがわかります。

被写界深度は、レンズを絞るほど、また撮影距離が遠くなるほど深くなり、逆の場合ほど浅くなるものです。

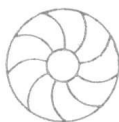
シャッターダイヤルは目盛の中間が使えませんが絞りは目盛の中間も連続的に利用できますから、露出を厳格に考える場合は、シャッター速度を先に決め、これに応じて絞りを加減することが最も合理的です。





F 5.6

深度約3.7m—7.8m



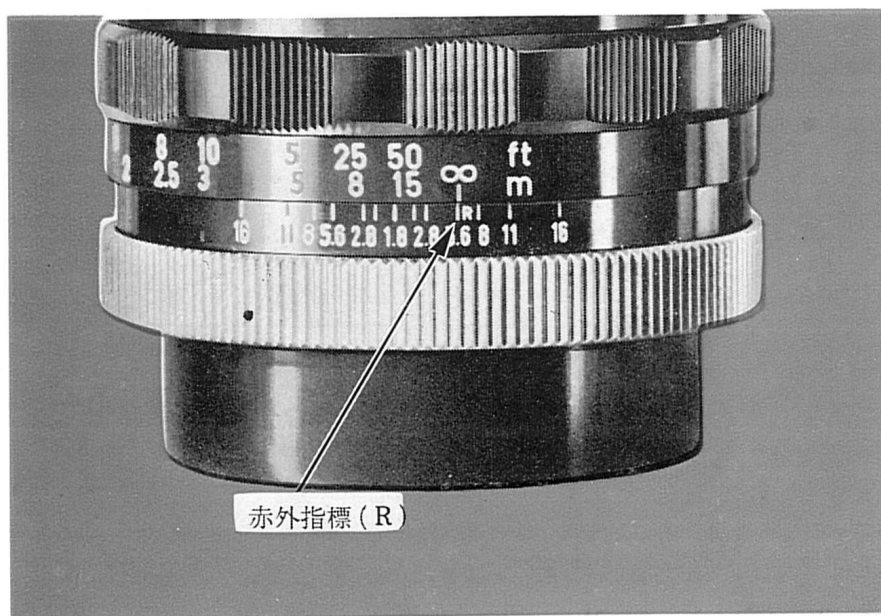
F 11

深度約2.9m—17m



* 赤外指標 (赤外マーク)

赤外撮影のときは、ピント位置が普通撮影よりも多少ずれるので修正を要します。それには普通にピントを合わせた後、まず距離指標で距離目盛を読み、その読み目盛を赤外指標まで移動させます。たとえば、ピントを合わせた結果が距離目盛で 15 だったとすれば、この 15 の目盛を R の位置までずらせ、 ∞ なら ∞ の目盛を R に合わせます。目測や巻尺で距離を合わせる場合は、距離指標の代りに赤外指標に距離目盛を合わせます。



赤外指標は $8000\text{\AA}$ 程度の波長に最大感度を持つフィルター（たとえばコダック IR 135 フィルムとラッテン 87 フィルター、または IR77～78 (JIS) フィルター）を用いる場合を標準にして目盛っております。赤末部を使用する場合、たとえばプラス X、あるいは一般のパンクロフィルムにラッテン 25 程度の赤色フィルターを添用する際などには、修正移動量を $1/3$ ぐらいとするのが適当です。

キヤノンフレックスの構え方

撮影の際、カメラを確実に構えることは、鮮鋭なピントの写真をとるために最も大切なことです。カメラは縦位置または横位置の状況に従って写真のように持ち、ピントガラスを覗いて構図の決定をすると同時にピント合わせをし、それから静かにシャッターを切ります。その際特に次のことが大切です。



1. 両手はつとめて深くカメラを握り込むこと
2. カメラを頬あるいは額に当てて固定すること
3. 横位置のときは両ひじ、縦位置のときは少くとも一方のひじをピッタリ体に付けること
シャッターボタンを乱暴に押すことはカメラブレの原因になります。撮影には三脚とレリーズを使う方が確実です。

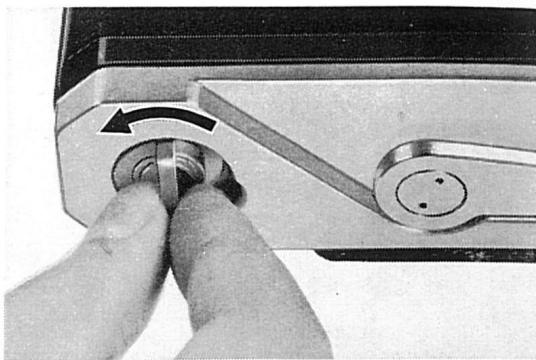
特に 1/30 秒以下の
スローシャッター
を切るときはこ
の点にご注意
ください。



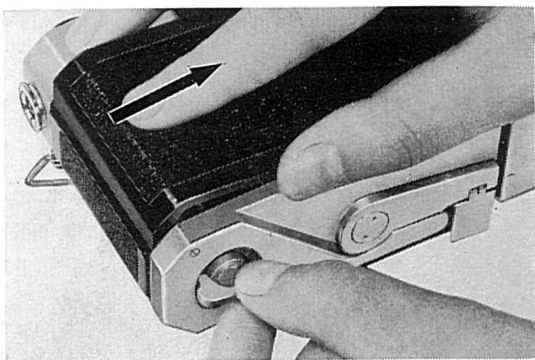
フィルムの装填

フィルムは市販の 35 mm 日中装填用パトローネ（カートリッジ入りフィルム）でも，キヤノン専用マガジンVに入れたもの（P. 34 参照）でも同様に用いられます。

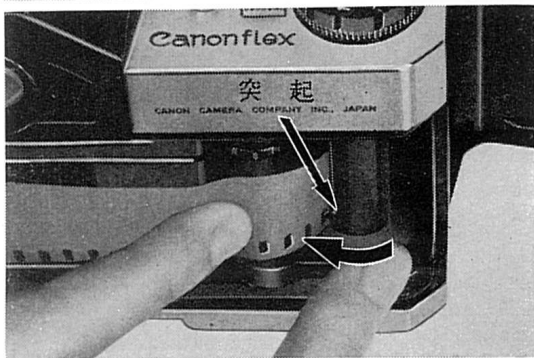
1. 底部の開閉つまみを引き起して左回しに半回転します。

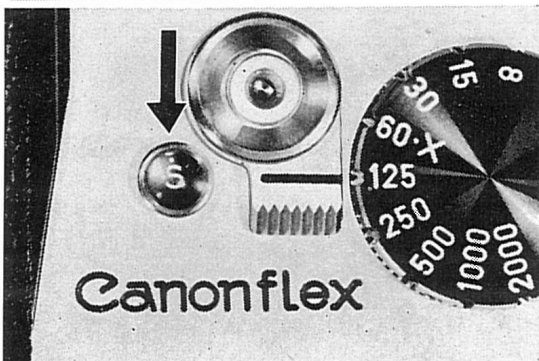
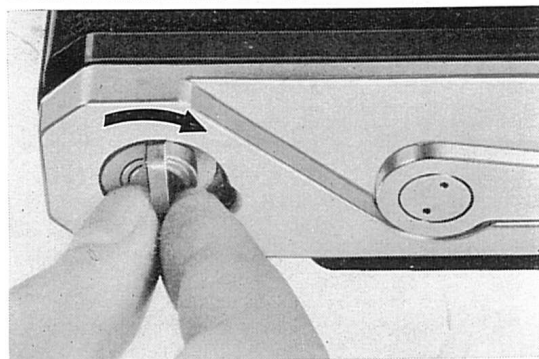
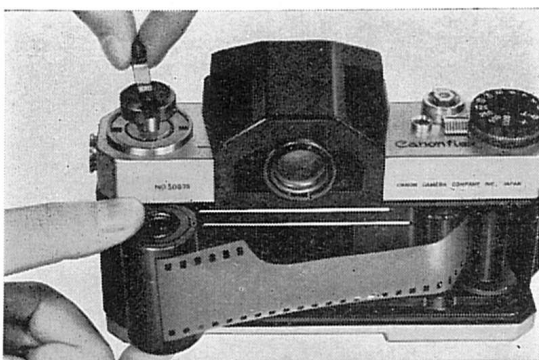


2. 裏蓋が少し浮き上がりますから，これに指をかけてあけます。



3. フィルム端を巻き取りスプールの溝に十分差し込み，スプールのつばを矢印の方向に少し回しながら溝ぎわの突起をフィルムの孔にかけます。





4. 巻き戻しクランクを引き起し、巻き戻しノブと共に十分に引き上げた後、パトローネまたはマガジンをカメラ内に収め、再び巻き戻しクランクの軸を元のように押し込みます。

マガジンを入れる場合はカメラ底部の開閉つまみが開放位置でないとマガジンが入りません。

5. その際フィルムの孔をスプロケットの歯に完全にかかけ、またフィルムにたるみがあれば巻き戻しクランクを右回しに回してたるみを取っておきます

6. 裏蓋を閉じて、これを押さえながら開閉つまみを右回しに回します。巻き戻しクランクは折り畳んでおきます。

7. レンズキャップをかぶせたまま、巻き上げの操作をして2回空写しをします。撮影枚数表示はフィルム装填のはじめ S (スタート) の位置に復帰していますが、2回の空写しによって0の表示が出ます。

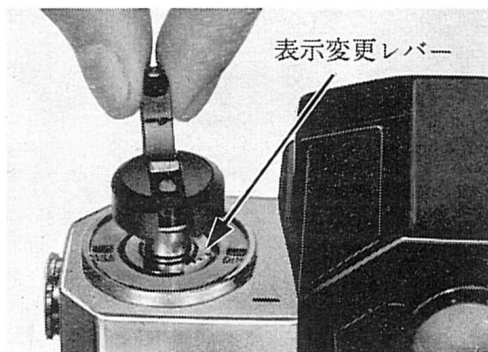
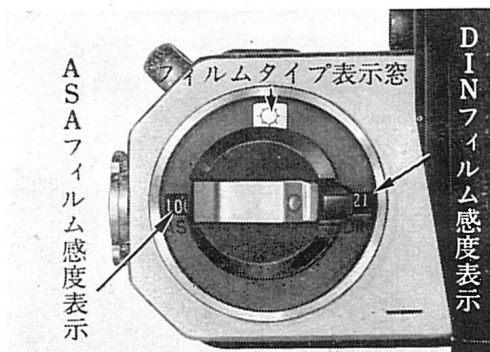
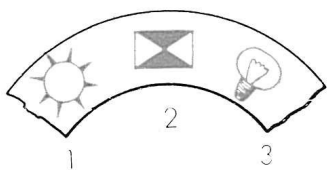
次に巻き上げをすると一枚目の撮影準備ができます。

フィルム装填良否の確かめ方

巻き取りをするごとに、巻き戻しノブ全体が回ります。このことでフィルムが正しく巻き取られているか否かがわかりますから、巻き上げの際は、いつもこれを見るようにお勧めします。もし回らなければ、フィルムの端がスプールから抜け出しているか、フィルムの孔がスプロケットからはずれていることになります。その場合は、20 頁のフィルム巻き戻しの要領で、フィルムを一旦取り出して装填し直さなければなりません。

*フィルムタイプ表示とフィルム感度表示

装填したフィルムの種類と感度をここに表示しておきます。表示をかえるには巻き戻しノブを引き上げ、そのかげにあるギザギザ付きの 2 個のレバーに指をかけて回します。一方のレバーでフィルムタイプの表示が変わり、他方のレバーで感度表示が変わります。①はデライト用カラーフィルム、②は白黒フィルム、③はタングステン光用カラーフィルムを示します。

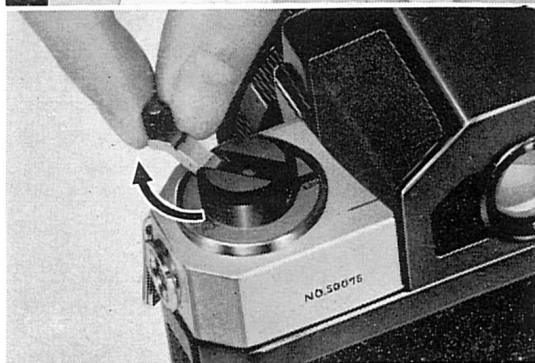
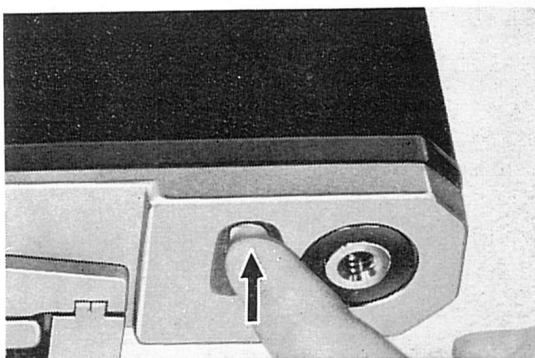




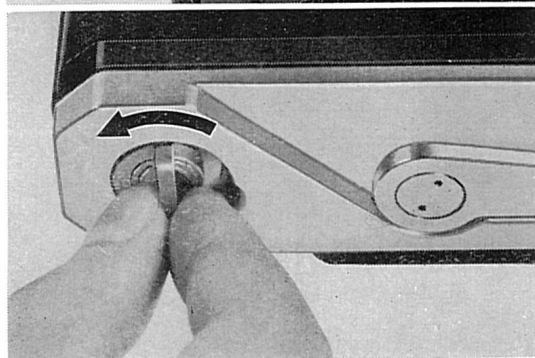
フィルムの巻き戻し

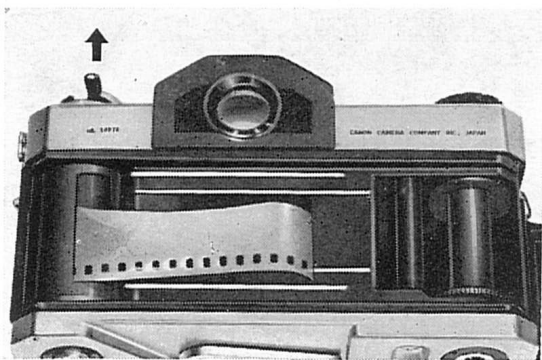
フィルムが終りになると巻き上げに抵抗を感じますから、巻き上げを中止し、次の順序によってフィルムを元のマガジンまたはパトローネに巻き戻します。

1. 巻き戻しクランクを起し、カメラ底部の巻き戻しボタンを押した後、巻き戻しクランクを矢印の方向に回してフィルムを元のマガジンに巻き戻します。巻いているうちに急に抵抗がなくなって軽く回せるようになったら巻き戻しを止めます。



2. 裏蓋開閉つまみを左回しに回して裏蓋を開きます。



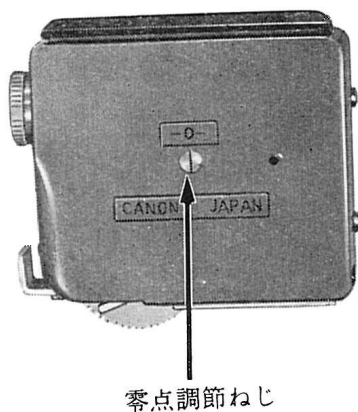
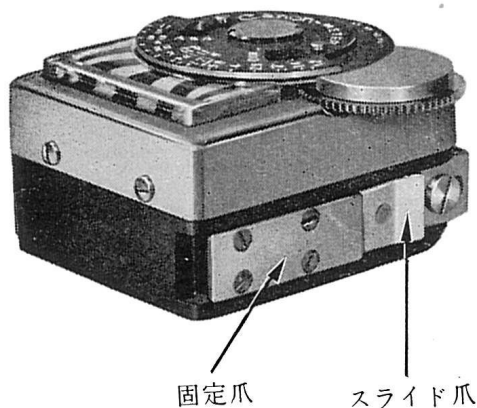
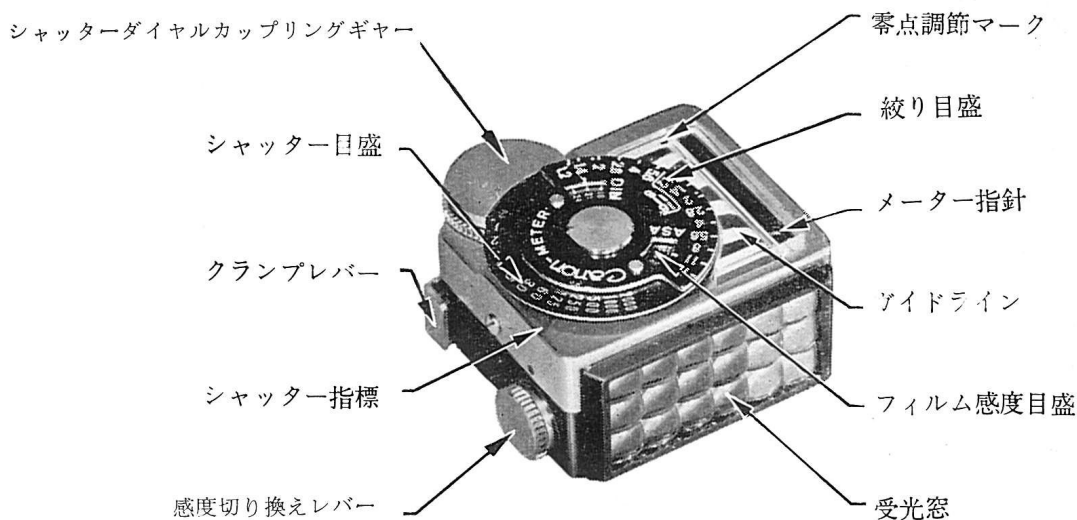


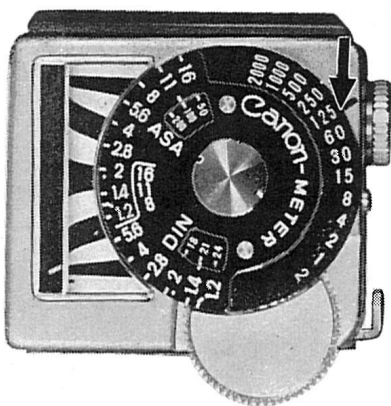
3. 巻き戻しノブを十分に引き上げた後、マガジンまたはパトローネを取り出します

- 巻き戻しボタンは一度押したなら指先を離してもさしつかえありません。トリガーレバーを巻き上げますと、このボタンは自動的に戻ります。
- 巻き戻しはシャッターの巻き上げ後でも巻き上げをしない状態でもさしつかえありません。
- 巻き戻しの際は必ずレンズキャップをしてください。
- フィルムが終りにになっているのに、無理にその巻き上げをすると、巻き戻しができなくなって、暗室でフィルムを取り出さなければならなくなりますから、ご注意ください。

キヤノンメーター Rの連動

キヤノンフレックスにキヤノンメーター Rを取り付けると、これに連動してシャッターおよび絞りを適正露出にセットすることができます。





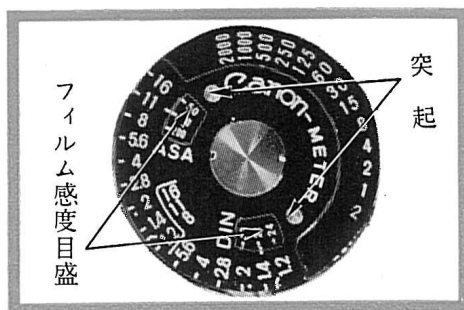
取り付け取りはずし

1. 取り付けにはまずカメラのシャッターダイヤルがどのスピードにセットされているかを読み、キャノンメーターRのシャッター目盛がそれと同じスピードになるように指標にセットします。
2. 次に固定爪をアクセサリークリップのレンズ側の足にかけ合わせ、さらにクランプレバーを押しながらメーターをカメラに押し付け、レバーから指を離します。こうするとスライド爪が戻ってアクセサリークリップの足にはまり、メーターがカメラに固定されます。それと同時にカップリングギヤーが、シャッターダイヤルにかみ合って連動するようになります。その際念のため両ダイヤルのスピード指示が一致しているか、シャッターダイヤルがスムーズに回せるかどうか確かめておきます。
3. メーターを取りはずすときはクランプレバーを押すだけで前方に引きはなせます。



露 出 の 決 定

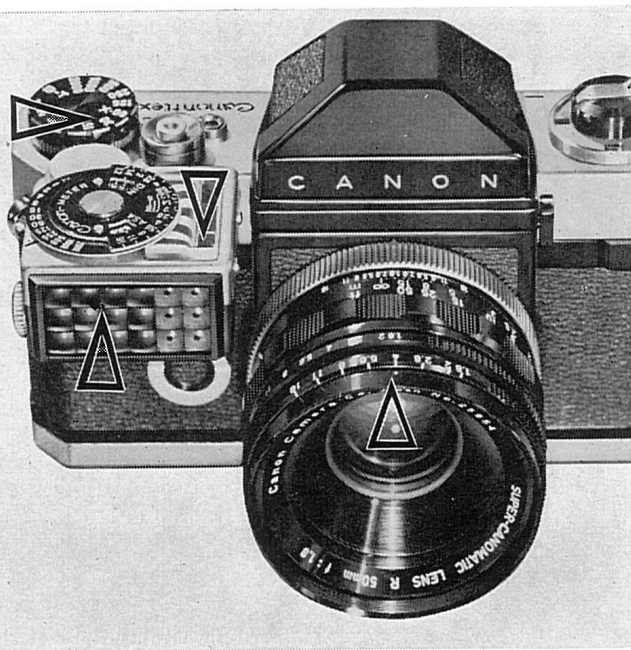
1. フィルム感度目盛を使用
フィルムの感度に合わせ
ます。それにはシャッ
ターダイヤルを回らない
ように押さえ、メーター
目盛盤上の2箇の突起に
指をかけて回します。

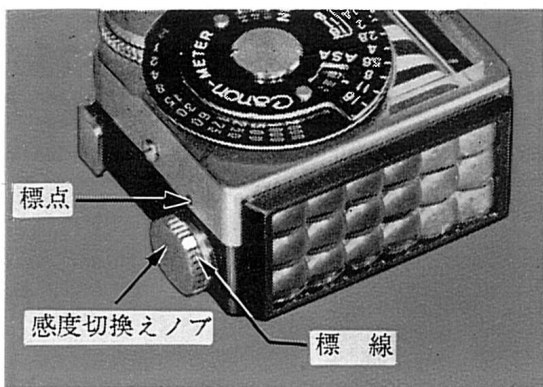


2. カメラをメーターご
と被写体に向け、シ
ャッターダイヤルを
回してメーターの針
にレンズの絞りと同
じ目盛を合わせます。
絞り目盛の白色目
盛と黄橙色目盛に
ついては、後の感
度切り換えの項を
ご参照ください。
このようにしてシャ
ッターダイヤルは自
動的に正しい露出に
セットされます。

この方法の代りに次の
ようにすることもできます。

1. シャッタースピードを先に決めてカメラのシャッターダイヤルを
セットします。
 2. メーターを被写体に向けてメーター指針が指示する絞り目盛を読
み取り、レンズの絞りをこれと同じにセットします。
- なお第一の方法で、シャッターダイヤルが目盛のあいだを示した
場合は、これに一番近いクリックストップの位置にセットし、そ
の際メーター指針が指示する絞り目盛を読んでレンズの絞りをこ
れに合わせるようにすると最も正確になります。





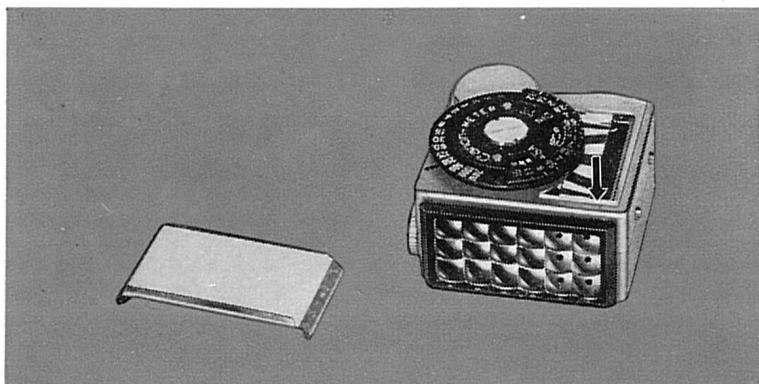
メーター感度の切り換え

被写体が明るくてメーターの指針が振り切れるとき、または被写体が暗くて指針が動かないときは、感度切り換えノブを回して感度の切り換えをします。ノブに付いている白色標線が上方にあるときは、

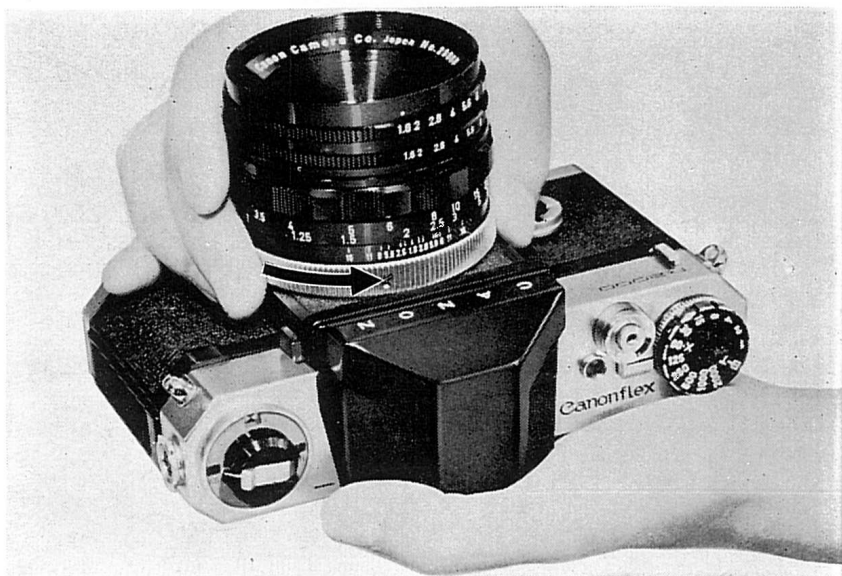
低感度用（明るい被写体用）で、メーターダイヤルの絞り目盛は白色目盛を用い、ノブの黄橙色標線が上方にあるときは高感度用（暗い被写体用）で、ダイヤルの絞り目盛は黄橙色目盛を用います。

拡散板の使用

メーターの受光窓に拡散板を取り付けると入射光式に用いることができます。入射光式で露出の決定をするには、カメラを被写体に向けずに被写体位置から逆方向に向けて同様に指針を調べます。拡散板を取り付けるには、その金具を受光窓側部の差し込み溝に上方からはめて押し下げます。

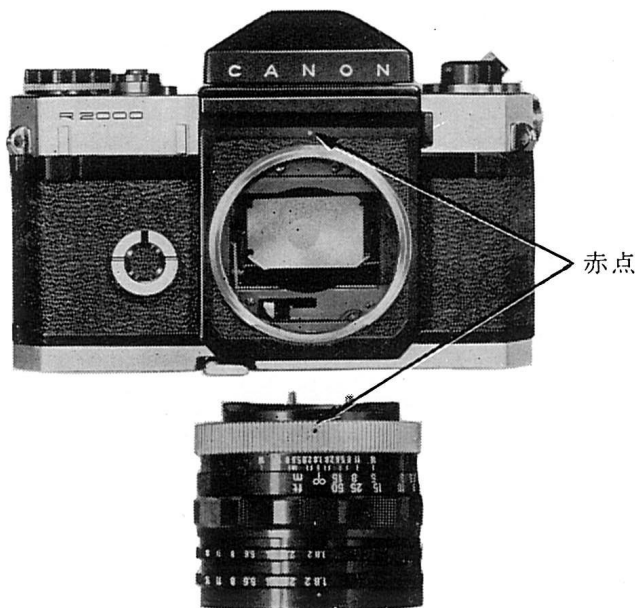


レンズの交換



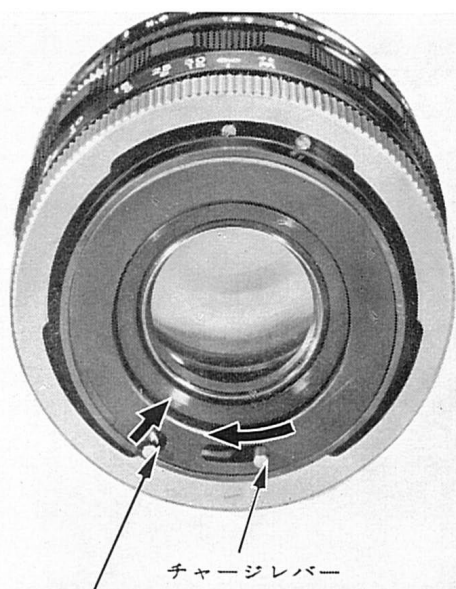
カメラからレンズをはずすには、レンズのバヨネットリングを左回しに回した後レンズを前方に引き出します。

レンズを取り付けるにはカメラのマウント部の赤点にレンズの赤点を合わせてカメラにはめ込み、バヨネットリングを右回しして締め付けます。



レンズの後端にはプリセット絞りのチャージレバーとその作動レバーとがあります。チャージレバーを矢印方向に動かしておいて、作動レバーを動かすと絞りが開閉するようになっています。レンズの取り付けをする際は、このチャージレバーをチャージしてから取り付けてください。なお、シャッターを巻き上げてあるカメラに、プリセット絞りのチャージしてないレンズを取り付けてシャッターを切りますと、最初の一回だけは自動プリセット機構が作用しません。

もちろん、その次からは自動的にプリセットが行われます。



作動レバー

チャージレバー

● 注意：レンズを取りはずした際はミラーに指先を触れないようにご注意ください。また長くレンズをはずしておくときは、カメラとレンズのマウントにそれぞれキャップや蓋をかぶせておきます。

レンズの泡は、明るさを何百分の一か何千分の一か減らすことになりますが、この程度では撮影上全然問題になりませんし、また像の鮮鋭度にも何等影響ありません。高級レンズに使われる特殊ガラスは気泡の残存を免かれませんので、高級レンズの製造上やむをえないものとしてご了承願います。

交換レンズ

交換レンズ

キヤノンフレックス R 2000 には、広角から望遠にいたるまで、多数の交換レンズが用意されており、これらを使いこなすことで一層カメラを活用できます。

スーパー キヤノマチック レンズ

広角 R 35 mm F 2.5 ¥ 28,000

標準 R 50 mm F 1.8

望遠 R 100 mm F 2 ¥ 35,000

R 135 mm F 2.5 ¥ 35,000

絞りがつねに開放で撮影の瞬間だけ絞られる完全自動プリセット絞り機構をそなえています。

キヤノマチック レンズ

望遠 R 200 mm F 3.5 ¥ 38,000

プリセット絞りをチャージリングによってセットする形式です。

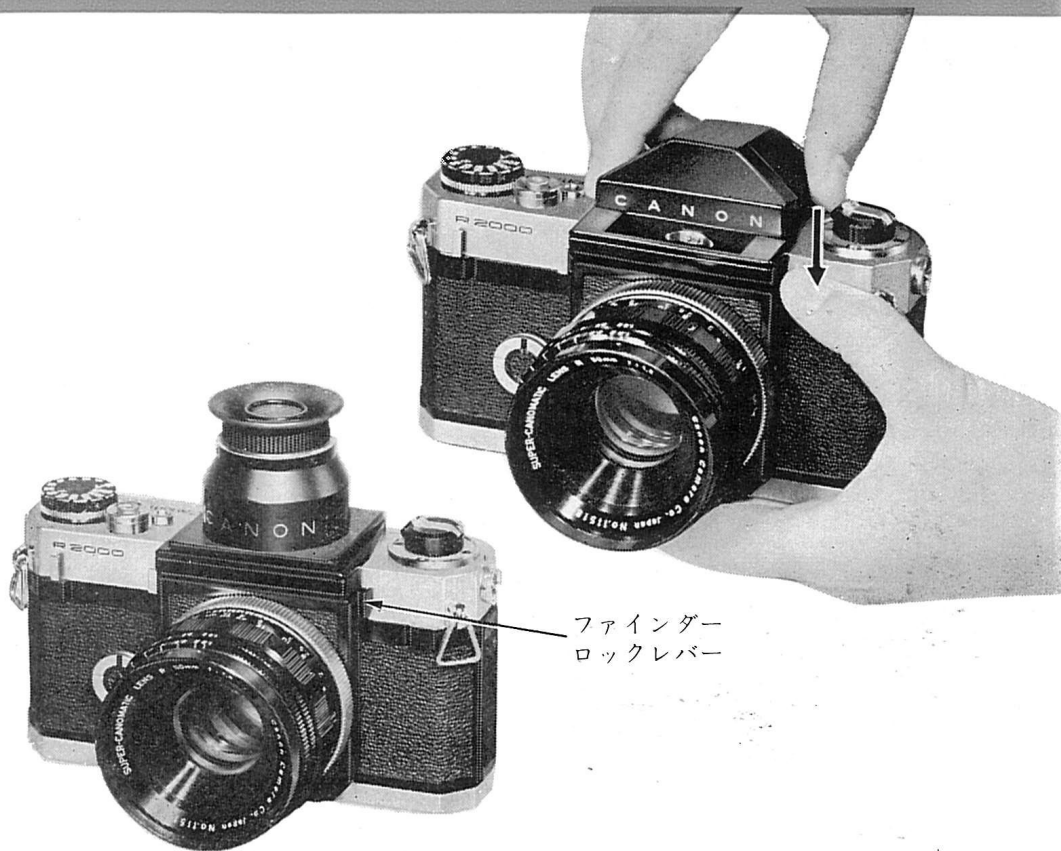
キヤノンレンズ

長焦点 R 85 mm F 1.9 ¥ 28,000 望遠 R 135 mm F 3.5 ¥ 22,000

その他 300 mm 以上の極長焦点レンズがあります。



ファインダーの交換



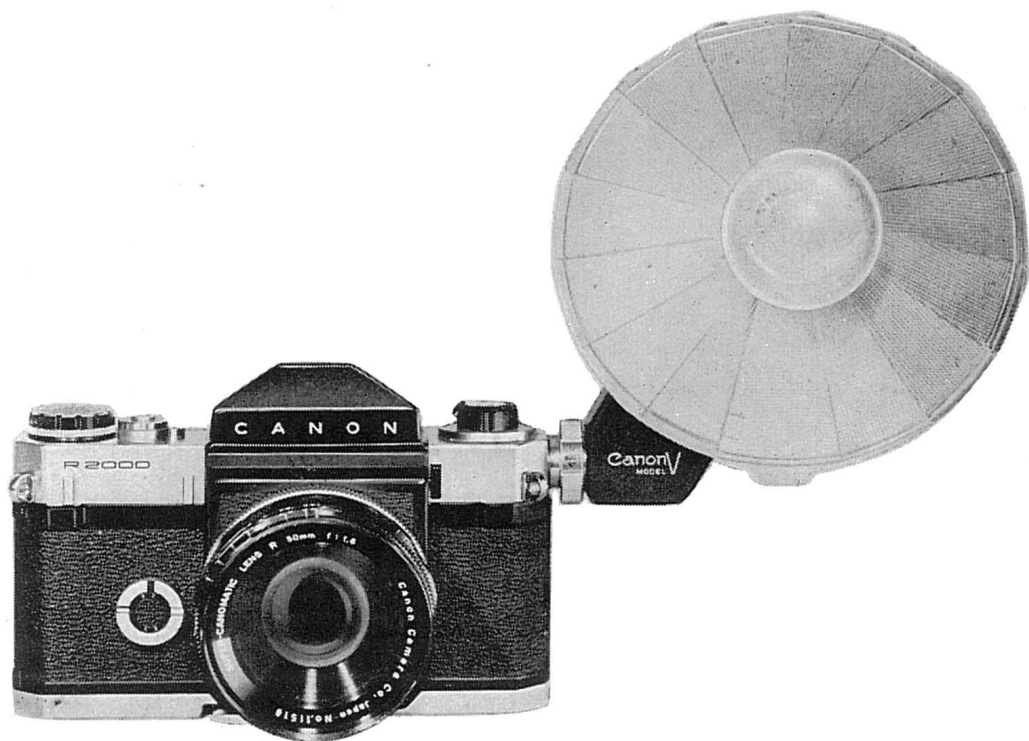
ファインダー
ロックレバー

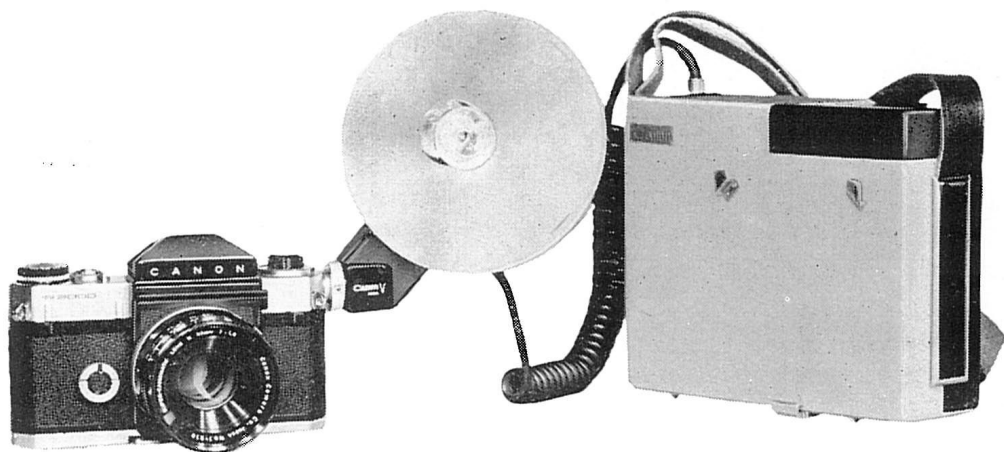
ファインダーにはアイレベルファインダーのほかに、これと交換して上方から覗くウエストレベルビューワーの用意があります。その交換をするには、まずカメラ前面のロックレバーを図のように下方に押しながらアイレベルファインダーを後方に引いて取りはずし、次にウエストレベルビューワーを同じ位置にさしこみロックさせます。交換のさいアイレベルファインダーのプリズム面やカメラのピントガラス面を汚したり傷つけないようご注意ください。

フラッシュ同調

フラッシュユニット直結ソケットにキヤノンフラッシュユニットVを接続しますと、次頁の表の各シャッター速度でフラッシュ同調撮影ができます。キヤノンスピードライトV(ストロボフラッシュ)も同様に使用できます。

発光のタイムラグはシャッターダイヤルのセットの際自動的に調節されます。





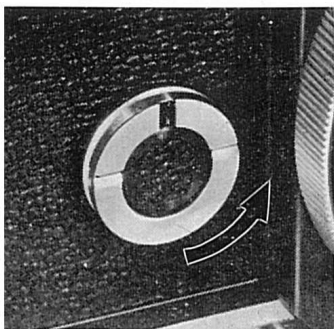
同 調 範 囲	フ ラ ッ シ ュ バ ル ブ			
シャッター 速 度	FP 級	M 級	F 級	スピー ド ライ ト
2000	○	●	●	●
1000	○	●	●	●
500	○	●	●	●
250	○	○	●	●
125	○	○	●	●
60-X	●	●	●	○
30	●	●	○	○
15	○	○	○	○
8	○	○	○	○
4	○	○	○	○
2	○	○	○	○
1	○	○	○	○
B	○	○	○	○

●印の部分は使用できません。

超小型フラッシュバルブにはなるべく $1/15$ 秒よりおそいシャッターを、また M 級バルブもなるべく $1/125$ 秒よりおそいシャッターを切ってください。

60-X 目盛はスピードライトのみに同調します。

セルフタイマー



シャッターを普通に巻き上げ、セルフタイマーの巻き上げつまみを引き起し、これを左回しに回して巻き上げた後、シャッターボタンを押すと、まずセルフタイマーがはたらき、約10秒おくらせてシャッターが作用します。

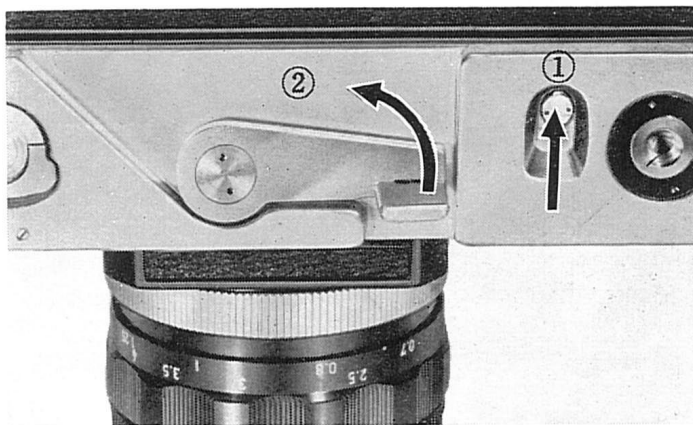
セルフタイマーは、巻き上げの位置によっておくれる時間の調節ができますが、約3分の2以上巻き上げないとシャッター機構と連結しません。セルフタイマーとシャッターの巻き上げとはいずれが先でもさしつかえありません。



カメラやレンズの紛失、盗難に際しては警察関係の届け出のほか、最寄りのカメラ材料店にご相談ください。店では、わずかの費用で全国の業者に連絡し、品物の発見にご協力申し上げることができます。

カメラやレンズの番号は、いつでもわかるようなお心づかいをお勧めいたします。

二重露出

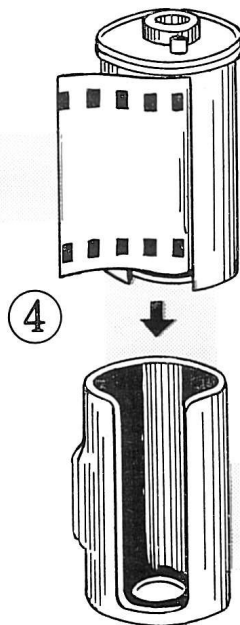
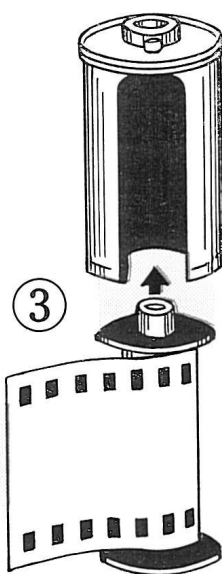
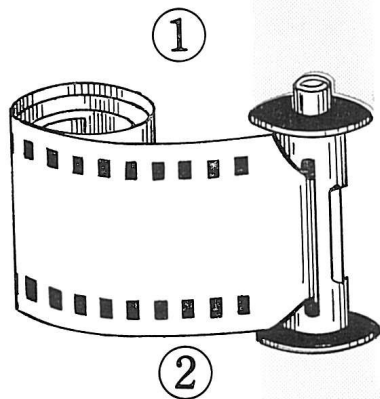
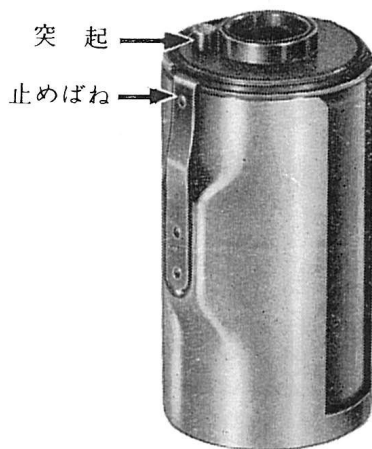


キヤノンは通例の取り扱いでは二重露出が防止されていますが、必要のとき、巻き戻しボタンを一旦押してからトリガーレバーを巻き上げ、次にシャッターボタンを押すと同じフィルム面上に二重露出ができます。この操作を繰り返すと同一フィルム面で何回でも露出することができます。

極寒地では、カメラは撮影時以外直接外気に触れさせないよう保護し、また手速く撮影を済ませるのが望ましいことです。そうすれば機能を落さずに済みます。撮影に取り出す場合も徐々に外気に触れさせませんと水分の凝結でレンズ面が曇り、撮影のできないことがあります。

カメラを海水に落したときは時を移さず清水で洗い、きれいに拭いたのち直ちに修理にお出してください。グズグズしていると腐蝕のため回復不能になります。

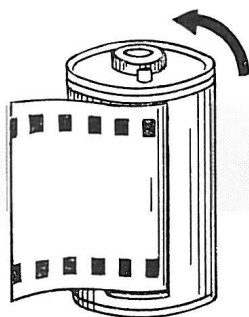
キヤノン専用マガジンとフィルムの詰め方



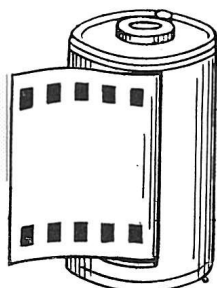
フィルムの取り扱いは安全灯下か暗黒下で行わねばなりません。
フィルムを入れたマガジンはカメラに装填するとき以外は必ずマガジンケースに収めておいてください。

スプールやマガジンが現像液や定着液などで汚されていると、フィルムにシミが生じたり、マガジンを錆させたりしますから、綺麗に拭いて使用することが大切です。

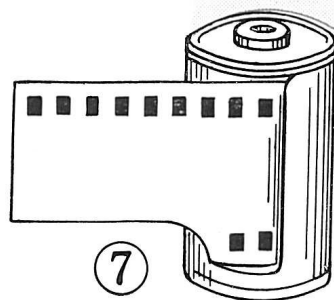
- ① 図のようにマガジンを持って突起を指で矢印の方向に押すとロックはずれて内筒が少し回ります。内筒と外筒との窓口が合ったとき内筒を引き出します。
- ② フィルムの乳剤面（巻きぐせの内側）を向うむきにして、先端をスプールの軸溝に差し込みます。軸溝は幅の広い方が入口です。フィルムは軸内の戻り止めの作用で戻らなくなるはずですから、少し動かして確かめてください。
- ③ 乳剤面を内側にしてフィルムを巻き込み、これを内筒に収めます。乳剤面に指先を触れてはなりません。またゆるく巻いて、後で強く巻きしめるとフィルムに傷がつきます。
- ④ 窓口を合わせて内筒を外筒にはめ込みます。
- ⑤ 矢印の方向に内筒を回します。
- ⑥ **パチン**と音がして安全装置がかかります。
- ⑦ 長巻きフィルムのときはフィルムの端を図のように切り取ります。



⑤



⑥



⑦

カメラの保存手入れ

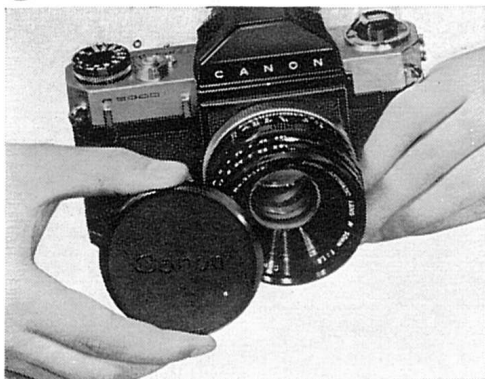
カメラの保存： カメラは湿気や埃を嫌います。長い間しまい込んで放置しておいてもシミや錆を生ずることがあります。むしろしばしば使用して外気に触れさせる方が無難です。長らく使用しないときはシリカゲルのような乾燥剤を入れてしまうことをおすすめします。保存の場合は速写ケースをはずしてください。

カメラの手入れ： 野外で使ったカメラは塵埃が付き易く、また雨の日や海辺で使ったあとは気付かないでも、水滴や塩分を受けてシミや錆を生じ、あるいはレンズのヤケや腐蝕の原因になります。そのような際は柔い刷毛で埃を拭い、乾いた柔い布で丁寧に拭きます。レンズにはなるべく手を触れない方が無難で、ゴム球付きのブロワーで吹き飛ばすか、柔い刷毛で軽く払う程度にすることをおすすめいたします。やむを得ないときは洗いさらした柔い清潔な布を棒に細く巻き、先端にわずかに湿る程度のアルコール（エーテルを少量まぜればなお可）を付け、レンズの中心から外側に渦巻きを描くようにして軽く拭きます。強く拭いたり、埃の付いているまま拭くと、かえってキズを付けますから注意が大切です。ミラーには特に手を触れないようにご注意ください。

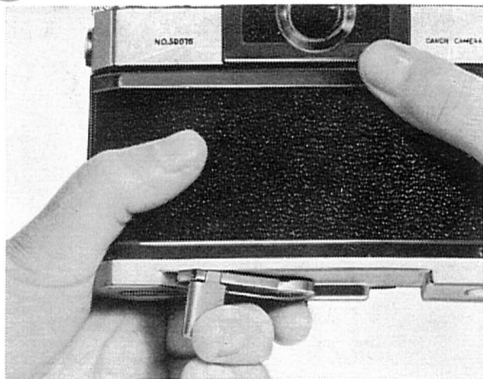
Canon

撮影の手順

1 レンズキャップをはずす



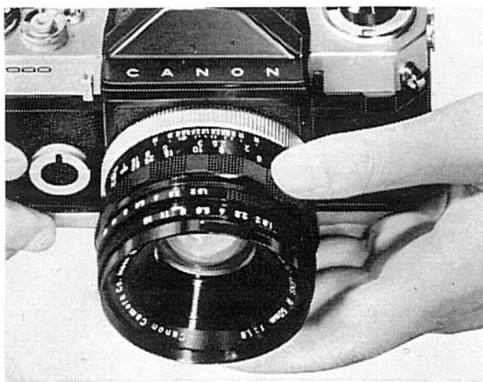
2 巻き上げをする



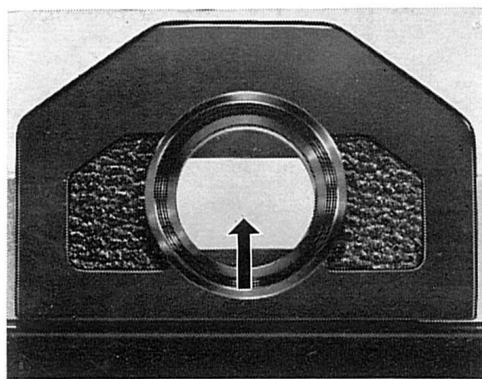
3 キヤノンメーターによりシャッターと絞りをきめる



4 被写体にピントを合わせる

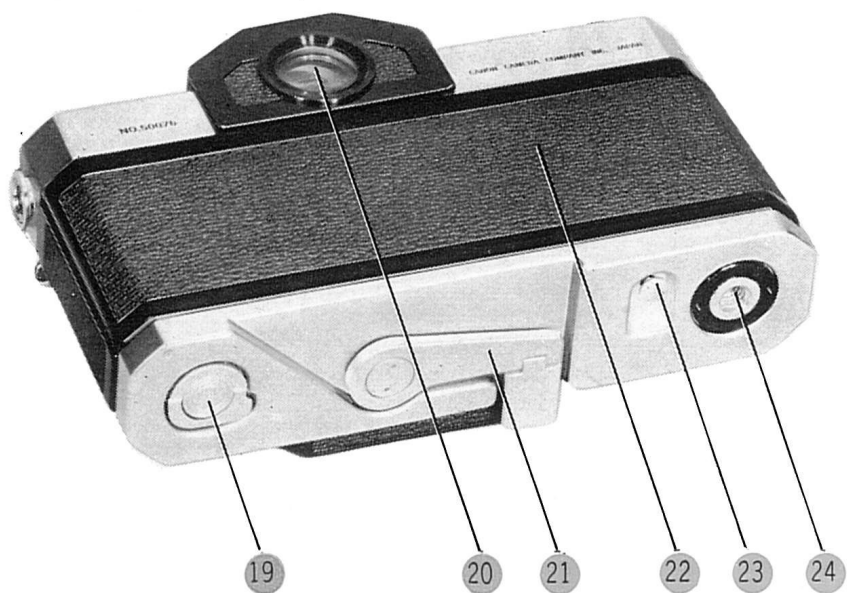


5 構図をきめる



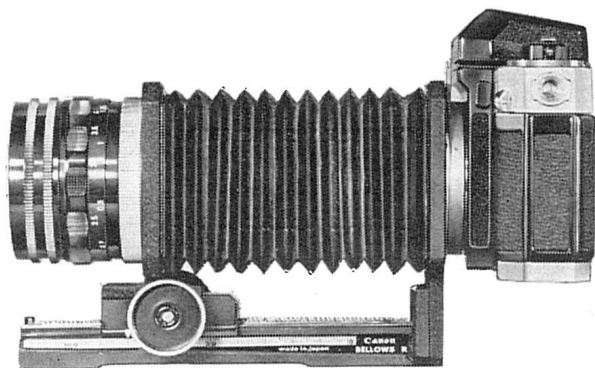
6 シャッターを押す





- | | | |
|----|----------------------|--------|
| ①9 | 裏蓋開閉つまみ..... | 16. 20 |
| ②0 | アイレベル ファインダー接眼窓..... | 9 |
| ②1 | トリガー レバー..... | 6 |
| ②2 | 裏 蓋..... | 16 |
| ②3 | 巻き戻しボタン..... | 20. 33 |
| ②4 | 三脚取り付けねじ孔..... | |

アクセサリ



ベローズ R

¥8,000 (皮ケース ¥1,000)

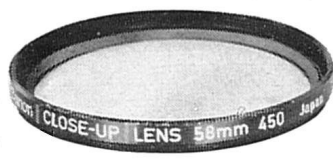
一眼レフ独特の近接撮影、拡大撮影に欠くことのできないアクセサリで、さらに距離計付キャノン用レンズを利用することができます。

58 mm ねじ込みクローズアップレンズ

450 撮影距離 55 cm~33 cm ¥2,000

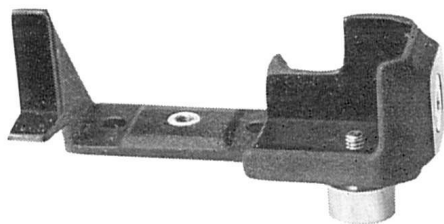
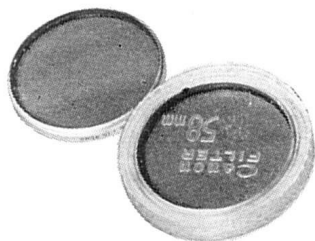
240 撮影距離 33 cm~26 cm ¥2,000

レンズ頭部にねじ込んで簡単にクローズアップ撮影ができます



カメラホルダー R-2 皮ケース付 ¥1,900

三脚に取り付けるさいカメラを堅固に保持します。



フィルター ねじ込み式 各プラスチックケース付

SY 44・2C(淡黄), SY 50・2C(黄), SO 56・2C(橙), MG 55・C(緑), SR 60・2C(赤) の5色および SL 39・3C(UV), ほかにカラーコンバージョンフィルター, スカイライトフィルター, ニュートラルデンシティ フィルターがあります。

58 mm ねじ込みフィルター

(R 35 mm F 2.5, R 50 mm F 1.8, R 100 mm F 2, R 135 mm F 2.5, R 200 mm F 3.5 用) 各色 ¥1,500, UV ¥1,600

カラーコンバージョン・スカイライト 各 ¥1,600

Canon

キヤノンカメラ株式会社
東京・大田区下丸子町 312
TEL. 738-2111 (大代表)